

★3月の休館日：6日(月)、13日(月)、14日(火)、20日(月)、27日(月)



プラネタリウム番組のご案内

3月の一般投影

縄文時代の星空

縄文時代は今からおよそ1万5500年前から2800年前まで、1万年以上にわたって続きました。縄文時代の人々は、どのような星空を眺めていたのでしょうか。

地球の自転軸は、太陽や月の引力などの影響で、コマの首振り運動のように約2万6000年の周期で一回りする歳差運動をしています。歳差運動により、地球の自転軸を北へ伸ばした先（天の北極）に輝く星、北極星は時代とともに移り変わっています。現在の北極星は、こぐま座の α 星ボラリス（2等星）ですが、約5000年前はりゅう座のトゥバン（4等星）、約1万4000年前は、こと座のベガ（1等星）など、別の星が北極星でした。歳差運動によって自転軸の向きが変わると、日本から見える星座も違ってきます。現在では、沖縄以南でしか見ることができない南国のあこがれの星「南十字星」も、縄文時代の頃の明石では見ることができました。

日本には、縄文時代の遺跡がいくつあります。青森県の三内丸山遺跡には、約5000年前に作られた大型の堀立柱建物跡があり、調査をもとに復元された建物は高さが約20mもあります。目的や用途など、はっきりしたことはわかっていますが、星や太陽など天体を観測する施設だったという見方もあります。また、秋田県にある大湯環状列石は、約4000年前の遺跡です。遺跡にある二つの環状列石の中心を結んだ延長は、夏至の日に太陽が沈む方向を指しています。

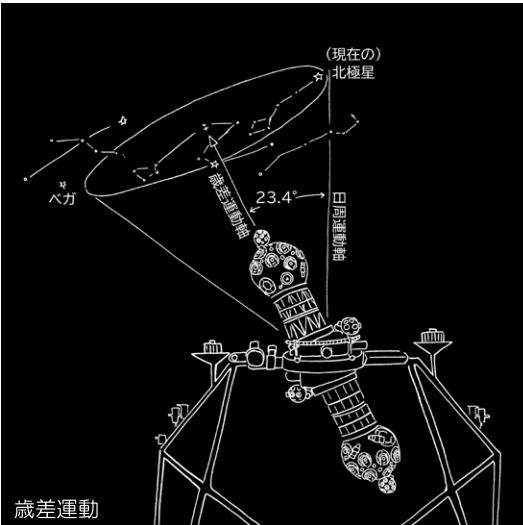
天文科学館のプラネタリウム投影機は、遠い過去の星空も投影することができます。今月は、縄文時代の人々が見上げた星空をプラネタリウムで再現します。



三内丸山遺跡（青森県）



大湯環状列石（秋田県）



キッズ
プラネタリウム

★ 幼児や小学校低学年を対象とした子ども向けプラネタリウムです。
土日祝および春休み(3/25~4/9)の
11:10~/14:30~

こども天文教室

★小学4年生以上を対象に、テーマごとの天文の話題を少し詳しく解説するプラネタリウムです。どなたでもご参加いただけます。

ほしざらおえかき

☆3/4(土)～4/16(日)☆



空に輝く星を結び、絵をえがいて星座ができました。星座の星の結び方は自由です。星を結んで、いろいろな絵をえがいてみましょう。

軌道星隊シゴセンジャー(春場所) ※事前申込制

☆3/18(土)・3/19(日)・3/21(火・祝)☆ 11:10~

© 4/8 (四)

3Dプリンターでつくる宇宙展

宇宙を探査する探査機やロケット、小惑星などの天体の3Dデータからつくられる模型を展示。模型とともに宇宙を紹介します。



時と宇宙の博物館 明石市立天文科学館